

<様式>

学 校 名	山形市立南山形小学校 山形市大字松原字東河原188番地 TEL 688-2430 FAX 688-9043	校 長	沼澤 聡
		研究主任	朝倉 諒
研 究 主 題	主体的に学びを求め、互いに認め合って生活する子どもの育成（2年次）		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来、新型コロナウイルス感染症によって医療・教育・経済等の問題が引き起こされたことを代表する「予測困難な時代」において、一人一人が自ら考え、判断して問題を解決していく主体的な態度が求められている。また、一人ひとりの個を尊重し、様々な価値観を共有しながら課題を乗り越えていく協働的な態度も求められている。</p> <p>このような社会的背景を踏まえ、本校では、これからの時代を生き抜くことができる子どもたちを育てるために、重点目標として「主体的に学びを求め、互いに認め合って生活する子ども」を設定している。この達成のためには、具現化への方策が明確であることに加え、教職員のベクトルが同じ方向を向いていることも重要であると考え。従って、今年度は学校教育の重点目標＝研究主題とし、よりシンプルに、教職員が目指す方向性を一致させて校内研究に取り組むこととした。</p> <p>本校の子どもたちは、とても素直で、前向きに学校生活を過ごしている。また、コロナ禍が終わり、関わり合いが増えたことにより、話し合うことの重要性や楽しさを感じ取る姿が少しずつ見られるようになってきている。一方で、自分から進んで学ぼうとしたり自信を持って表現したりすることが苦手な子どもが多く、仲間との違いを受け入れることができない場面も見られる。そこで、育成したい資質・能力を『主体性』と『協働性』とし、これらを柱に重点目標（研究主題）に迫ろうと考えた。昨年度、職員間での主体性と協働性の捉え方が曖昧だったという反省を踏まえ、今年度は育成したい資質・能力を下記のように設定し、より具体的に捉え、研究に取り組んでいくことにした。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>主体性…○自ら問題を発見し、課題を設定し、進んで解決しようとする力 ○粘り強く取り組み、学びを生活に生かそうとする力</p> <p>協働性…○相手のよさや苦手なことも、互いに認め合う力 ○思いや考えを伝え合いながら、よりよい方法を生み出していく力</p> </div>		
研 究 の 目 標	育成したい資質・能力の主体性と協働性を柱として、日々の授業づくりを行いながら、授業改善・授業力の向上を目指す。		
研 究 の 内 容	<p>（1）日常的な授業実践</p> <p>子どもの思いに沿った単元構成や主体性と協働性を育成する単元のあり方などについては、日々追究し、日常的に子どもの成長を目指して実践する。また、授業だけではなく、学校行事、委員会活動やクラブ活動、たてわり班活動、清掃など教育課程全体で子どもを育てていく。</p> <p>（2）学級カリキュラムマップの作成</p> <p>学級経営案と学級カリキュラム、両方の性格を持つカリキュラムマップを作成する。「A3」1枚にまとめ、つけたい資質・能力が育まれたのか可視化できるようにしたい。また、定期的に更新し、PDCAサイクルをしっかりと回していくものとする。</p>		

(3) 校内授業研究会

校内授業研究会を通して、教師の授業力を高め、日常の授業の充実・改善に生かしていく。研究授業は学級経営の中核となり、重点に迫りやすい教科「国語」「算数」「生活・総合」から決定して実践を積み上げる。

- ①大研…今年度は、上学年4回、下学年2回の計6回とする。全員が参観する。
- ②事前研究会…学年で構想し、各学年部で指導案を検討する（下学年部会は1～3年、すぎのこ学級、副教務とし、上学年部会は4～6年、すぎのこ学級、教務主任とする）。事前研の日程は、研究推進委員と教務主任で調整する。
- ③事後研究会…主体性と協働性の育成を実現する授業のあり方について多角的な見方から迫っていけるようにする。外部講師を招聘し、指導を仰ぐ。
- ④研究のまとめ…授業者以外の教員がまとめ、次の研究授業や日々の授業づくりに生かせるようにしていく。

研究
の
方法

授業構想（学年で）

- ・授業者の思いや授業構想の共通理解
- ・大まかな単元の指導計画や本時の展開の検討

指導案作成

指導案検討（事前研）（上下学年部で）

- ・単元計画、本時の目標・学習活動・評価の一貫性、資質能力を育てるための手立てや工夫が適切か検討

指導案修正→指導案完成 （1週間前まで）

授業研究会（全員参観）

- ・育成する資質能力を中心に、子供たちの主体的な学びの姿を見取る。
- ※授業記録や写真は学年部で分担

事後研究会（全員参加）

- ・子供の学びの姿を中心に、手立てや工夫について
- ・重点や資質能力、カリキュラムマップと授業との関連について

研究だより「東雲」発行

授業者の振り返り、授業研での学びをこれからの日々の授業にどう生かすか、お互いの授業力の向上につながるように、成果と課題をまとめる。（学年部で発行担当を決める）

研究 の 計 画	月	校内研究全体会	大研(下学年・上学年)
	4	15日(月) 研究推進委員会① 30日(火) 研究全体会①	
	5		
	6		24日(月) 大研① 4-1
	7	3日(水) 研究全体会② (授業研・事後研) 11日(木) 研究推進委員会② 22日(月) 研究全体会③	3日(水) 大研② 2-2 17日(水) 大研③ 4-2
	8		
	9		6日(金) 大研④ 5-1
	10		
	11		6日(水) 大研⑤ 1-1
	12	5日(木) 研究全体会④(授業研・事後研) 10日(水) 研究推進委員会③ 23日(月) 研究全体会⑤	5日(木) 大研⑥ 6-2
	1		
	2	3日(月) 研究推進委員会④ 17日(月) 研究全体会⑥	
	3		